



適用雑草と使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ブタクロールを含む農業の総使用回数	A C N を含む農業の総使用回数
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ アオミドロ・藻類 による表層はく離	移植時	2~3kg/10a	1回	田植同時 散布機で 施用	2回以内	3回以内
		移植直後~ノビエ1葉期 ただし、移植後30日まで	2kg/10a		湛水散布		
		移植直後~ノビエ1.5葉期 ただし、移植後30日まで	3kg/10a				





効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ秤量し、使いきる。
- 本剤は雑草の発生前から発生初期に有効なので、ノビエの1.5葉期までに、時期を失ないように散布する。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布する。ホタルイ、ヘラオモダカ及びアオミドロ・藻類による表層はく離は発生始期までが本剤の散布適期である。
- 苗の植付けが均一になるように、整地、代かきはていねいに行い、ワラくずなどの浮遊物はできるだけ取り除く。また、未熟有機物を施用した場合は特にていねいに行う。
- 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも4日間は通常の湛水状態(3~5cm)を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないようにし、また、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。
- 梅雨期等、散布後に多量の降雨が予想される場合には、除草効果が低下することがあるので使用をさける。
- 下記のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさける。特に下記①~③の条件と散布時または散布数日以内の梅雨明けなどによる異常高温が重なると初期生育の抑制が顕著になるので注意する。
 - ① 極端な砂質土壌の水田及び漏水の大きな水田(減水深2cm/日以上)。
 - ② 軟弱な苗を移植した水田。
 - ③ 極端な浅植えの水田及び浮き苗の多い水田。
- 活着遅延を生じるような異常低温が予測される時は、初期生育の抑制などが生じるおそれがあるので、このような条件下での使用に際しては、県の防除指針に基づき関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 水稲が水没するような極端な深水で使用すると薬害を生じることがあるのでさける。
- 本剤散布後の田面水を他の作物へ灌水しない。
- 本剤使用後の空袋は環境に影響を与えないように適切に処理する。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

安全使用上の注意



- 誤食などのないよう注意する。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換する。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意する。

治療法…該当なし

魚毒性等…水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田及び養殖池等周辺での使用はさける。

水産動植物(藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。散布後は水管理に注意する。

散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

保管…密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼・乾燥した所。

